

# 神経科学ニュース

*Neuroscience News · Japan Neuroscience Society*

〒113-0033 東京都文京区本郷7丁目2-2 本郷ビル9F  
日本神経科学学会

TEL: 03-3813-0272 FAX: 03-3813-0272  
E-mail jnss@mb.newweb.ne.jp

## 学会のさらなる発展に向けて - 新委員会体制について

日本神経科学学会会長 津本忠治

去る1月15日の第66回日本神経科学学会理事会におきまして小生が会長に選出されました。研究以外の用務に割く時間が今まで以上に増えるのは大変つらい感があるのですが、永らくお世話になった学会のために、微力ながら任務を果たしたいと思います。この機会に理事会の下にある各委員会の体制を、別表のように大きく拡充致しました。この委員会体制の拡充は学会の活動を強化しようという以下のような観点に基づいています。



1. 学会の目的の一つに、会員に研究成果を発表するとともにその研究の推進に有用なコメント、批判或いは関連情報を得るための最高の場を提供することがあります。この具体的な場として、年次大会とNeuroscience Researchがあります。年次大会は内容、規模とも毎年進化し、今年も宮下大会長のもとに種々の新しい試みがなされ、素晴らしい大会になることが期待されています。学会としてはこの傾向をさらに推進するため、具体的には以下の方策をとりたいと思います。

### 目 次

学会のさらなる発展に向けて - 新委員会体制について	1
Neuroscience 2005 第28回日本神経科学大会	4
第27回日本神経科学大会・第47回日本神経化学会大会合同大会 Neuro2004 の報告	7
動物輸入に関するアンケート調査の結果報告	8
シンポジウム・研究会のお知らせ	12
研究助成	13
公募	15
その他	19
編集後記	20

1) 国際的に注目される大会とするため大会の国際化をさらに進める。特に、アジア大洋州地区における基幹の大会とするためアジア大洋州地区からの参加者の増加を積極的に図る。このためには、国際脳科学連合アジア大洋州地区委員会(IBRO-APRC)やアジア大洋州神経科学連合(FAONS)を積極的に取り込んでいく必要があると思われます。具体的にどのような方策をとるべきか等は主に国際対応委員会で検討していただく予定です。

2) 大会運営に関し大会長を始めとする研究者の負担をできるだけ軽減するため、事務所に事務スタッフを増員し、大会の準備、設営等に当たらせたいと思っています。北米神経科学学会は会員数は日本の約10倍ですが、その活動をささえる事務員は数十名います。一方、我が学会は常勤の事務員が一人という現状ですので、3月10日に事務所をより広く近代的なビルに移転し、事務体制を強化したいと思います。

一方、Neuroscience Research (NSR)の方は、優れた原稿の投稿が増え、また2003年のインパクトファクターが2.200と大幅に改善したように順調に発展してきました。このNSRも事務室を4月から東京の学会事務所へ移転しますが、この移転にともなうメールアドレス等の変更は学会のホームページや次号のニュースで詳しく紹介致します。

2. 神経科学研究を志向する学生、院生、ポスドク等の若手研究者を増やし、また神経科学に関する研究費が増えるよう種々の活動を行う必要があります。北米神経科学学会はこのような活動を以前から活発に展開してきましたが、日本ではほとんどなされなかったように思えます。若手研究者の参入を増やすには、魅力的な研究を展開することが第一ですが、それに加えてポスドク等をサポートする大型研究費の獲得が重要と思われます。従いまして、若手研究者を増やすためにも神経科学研究費の増大に関するキャンペーン的活動が必要と思われます。このいわばキャンペーン活動は1) 科学技術行政に対する働きかけ、2) メディアや一般市民に対する広報活動に分けられるように思います。

1) 科学技術行政に関しては、平成18年度からスタートする予定の第3期科学技術基本計画に向けて

現在、文部科学省、厚生労働省等で種々の計画が策定されています。最近、文部科学省ライフサイエンス委員会に提出された資料によりますと、政府全体の科学技術関係予算の中でライフサイエンス関係の予算は約20-21%を占め、平成13年度が約3910億円、14年度が3930億円、15年度が4270億円、16年度が4360億円と着実に増えてきています。脳科学関係の予算も先達の先生方の努力もあり、ライフサイエンスの中で重要な一角を占めてきました。ただ、ご存知のように日本政府の財政状況は深刻な歳入不足に蝕まれており、いままで比較的優遇されてきたライフサイエンス関係の予算が従来どおり増えるという保証は全くなく、今後横ばいかむしろ減ることが予想されます。このような状況の中で、がん、ゲノムを始めとして免疫学や、基礎生物学等、各分野間でパイの取り合いが一層激化することが予想されます。このような現状認識にたち、学会としても日本の科学技術政策の動向に関する情報を良く知るとともに科学技術政策立案に関係する公的委員会や最近始まったプログラムオフィサー制度、新しい科研費審査制度等への関与を如何に行うかを検討する必要があると思われます。これらの点は主に研究体制委員会に検討していただく予定です。

2) 科学技術政策を脳研究の方へ動かすもう一つの力はメディア及び一般社会の理解や動きにあると思われます。重要な成果が得られた場合、メジャーなジャーナルへの掲載が勿論最優先でしょうが、それに続いてメディアを介して一般社会への広報が求められる時代になっています。学会としても神経科学における研究成果の意義と重要性を積極的に発信していきたいと思えます。これらの発信を推進するため対外広報委員会に活動していただく予定です。また、一般市民や高校生に対する広報活動は従来NPO法人「脳の世紀推進会議」が活発に行ってききましたが、今後対外広報委員会が「脳の世紀推進会議」と連携しながら一般市民や高校生に対する広報活動も対象にしていただきたいと思います。

3) 会員向けの情報配信を完全に電子化する必要があります。従来、日本神経科学学会では会員への種々の通知やアンケート等の情報配信が電子化されていない部分が多く、そのための会員リストの整備

も遅れていました。また、入退会手続きの電子化にも問題が残っております。さらに、会員名簿も従来の冊子体は発行しないことは昨年の理事会で決まっておりますが、セキュリティーが高くまた便利な名簿電子版を如何に整備するかは未だ全く具体化しておりません。さらに、種々の選挙も、北米神経科学学会が既に実施しているように、電子化できるものと思います。これらの点は電子化問題対応委員会で早急に対処していただきたいと思っております。

4 神経科学研究のための基盤として実験動物は極めて重要な問題ですが、本ニュースの記事にもありますように、実験動物の輸入に関して最近非常に由々しき動きが出てきました。このような動きに対して、すでに伊佐先生を委員長とする動物実験・倫理委員会に迅速に対応していただいておりますが、今後とも動物実験を妨げるような動きに対しては積極的に対処していただく予定です。また、動物実験に関する倫理、さらにはヒトを対象とする研究の倫理的取り扱いも神経科学研究をスムーズに進展させるために非常に重要ですので、これらの点も視野に入れて活動していただく予定です。

5 日本神経科学学会は1998年に会則を大幅に改正し、それまでの専門会員制を廃止し、また細分化された7パネル制から壁を少なくした3パネル制に移行しました。その会則変更の目的の一つに会員を大幅に増やし日本の神経科学研究者を結集した学会になることがありました。記録をみますと、その1998年の会員数は3448名でしたが、昨年2004年の会員数は4318名です。これで1998年に期待した会員の大幅増が達成され日本を代表する学会になったかと考えますと、必ずしもそのようになっていない感じが致します。神経科学は他の分野に比べて人文科学や工学にもまたがったtransdisciplinaryな研究活動に最大の特色があります。その観点から日本の全ての神経科学研究者を横断的に結集する必要性は高いのですが、そのように日本の神経科学を代表し、北米やヨーロッパの学会に対抗する学会にするには今後どのようにすべきかを将来計画委員会で検討していただきたいと思っております。

以上、拡充した新各委員会に期待する任務を紹介しながら小生の考えを述べさせていただきました。もとより学会の目的の一つは、最初に述べましたように、会員の皆様に成果発表の場を提供するとともに研究遂行に有用な種々の情報を提供し、またそのために必要な活動をすることにあります。そのために学会が何をなすべきか、また上述した委員会活動で欠落している視点、追加すべき観点等、忌憚のないご意見を電子メール等でいただければ幸いです。メールアドレスはttsumoto@nphys.med.osaka-u.ac.jpです。よろしくお願い致します。

別表

日本神経科学学会体制(2005年1月-2007年12月)

会長 津本忠治

庶務理事 宮下保司

会計理事 森憲作

広報担当理事 狩野方伸

理事 伊佐正、大森治紀、岡野栄之、小澤澗司、小野武年、加藤進昌、金子武嗣、狩野方伸、川人光男、高橋智幸、田中啓治、西川徹、貫名信行、真鍋俊也、森憲作、津本忠治(機関誌理事)、木村實(2006年大会長)、宮下保司(2005年大会長、推薦理事)、村上富士夫(2004年大会長)、岡本仁(国際理事)、入来篤史(推薦理事)、大隅典子(推薦理事)、桐野高明(推薦理事)、小泉英明(推薦理事)、祖父江元(推薦理事)、藤田一郎(推薦理事)、八木健(推薦理事)

執行委員会 津本忠治、宮下保司、村上富士夫(2004年大会長)、木村實(2006年大会長)、森憲作、狩野方伸、金子武嗣

指名委員会、津本忠治、伊佐正、岡野栄之、小澤澗司、高橋智幸、貫名信行

選挙管理委員会 真鍋俊也、岡良隆、尾藤晴彦

プログラム委員会、各大会長が指名

広報委員会 狩野方伸

ニュース編集小委員会 白尾智明、岡部繁男、久保義弘、見学美根子、坪川宏、銅谷賢治、畠義郎、狩野方伸

ホームページ編集小委員会 柚崎通介、白尾智明、狩野方伸

対外広報小委員会 入來篤史、泰羅雅登、佐藤宏道、狩野方伸

将来計画委員会 金子武嗣、藤田一郎、川口泰雄、深井朋樹、八木健、姜英男、西真弓、玉巻伸章、櫻井芳雄、高橋良輔

Neuroscience Research 委員会 津本忠治、廣川信隆、御子柴克彦、小澤瀨司、小坂俊夫、岡野栄之、村上富士夫、丹治順、金子武嗣、宮下保司、田中啓治、小幡邦彦、三木直正、金澤一郎、加藤進昌

電子化問題委員会 真鍋俊也、井上貴文、中田隆夫、大澤五住、定藤規弘

国際対応委員会 岡本仁、入來篤史、村上富士夫、河田光博、林康紀、Ishwar S. Parhar

研究体制委員会 大隅典子、金澤一郎、川人光男、丹治順、鍋倉淳一、三品昌美

動物実験・倫理委員会 伊佐正、小林和人、藤田一郎、高草木薫、蔵田潔、泰羅雅登、中村克樹、高田昌彦、崎村建司、西条寿夫、八木健、畠義郎

会計監事 小幡邦彦、貴邑富久子

Neuroscience 2005  
第28回日本神経科学大会

多数の演題登録をありがとうございました。

事前参加登録の締切は

平成17年 5月31日(火) 12:00

\*\*\*\*\*

日本神経科学学会 会員各位

第28回日本神経科学大会 (Neuroscience2005) は、2005年7月26日(火) - 28日(木)パシフィコ横浜にて開催します。演題登録はすでに締切りました。1250題余りの登録を戴いて盛況な大会になることを感謝しております。5題の特別講演およ

び44シンポジウムの演題・座長等はすでに決定していますので、この記事の末尾に掲載致します。詳細については、大会ホームページ (<http://www.congre.co.jp/neurosci2005/>) を御覧下さい。

現在、一般演題の抄録内容等をプログラム委員会で査読中です。4月上旬までには、採択の可否等を、それぞれの筆頭著者にメールにてご連絡致します。

事前参加登録の締切りは上記の通り5月31日です。事前参加登録費は、当日参加登録費より、正会員で2000円、学生会員で1000円お安くなっております。学会員の利便性向上の一環として、今大会より参加費の支払方法を、従来の郵便振替に加えて、クレジットカード決済、銀行口座振込、コンビニ決済の中のどの方法でも可能としましたのでご利用頂きたく存じます。多数の方が事前参加登録されますようお願い致します。

今回の大会の運営に、会員の皆様のご意見を積極的に取り入れて実りのある大会にしたいと思致します。ご提案を歓迎します。今後、大会事務局から、託児所の設置運営方法等について、順次、会員の皆様にアンケートをお出しする計画です。質問・ご提案等は、大会事務局 ([neurosci2005@congre.co.jp](mailto:neurosci2005@congre.co.jp)) までお願い致します。

第28回(2005)日本神経科学大会  
大会長 宮下保司 (東京大学医学部)  
実行委員長 西川徹 (東京医科歯科大学)  
プログラム委員長 森憲作 (東京大学医学部)

資料: 2005年日本神経科学大会 学術プログラム (敬称略)

【特別講演】  
中西 重忠 (京都大学医学研究科・生体情報科学) 分子神経科学: 過去から未来に向けて(若手研究者のために)

- Fred H. Gage ( The Salk Institute, U.S.A. )  
Neurogenesis in the Adult Mammalian Nervous System  
function and related disorder-  
オーガナイザー 鈴木利治(北海道大学、薬)、古市貞一(理研 BSI)
- Jeff W. Lichtman (Harvard University, U.S.A. )  
Monitoring Synapses in Fluorescent Mice  
グルタミン酸化学伝達におけるグルタミン酸トランスポーターの役割  
Roles of glutamate transporters in glutamatergic signaling  
オーガナイザー 田中光一(東京医科歯科大学)、高森茂雄(東京医科歯科大学)
- Nikos K. Logothetis ( Max-Planck Institute for Biological Cybernetics, Germany )  
Seeing and Perceiving: Phenomenology & Physiological Mechanisms  
神経科学における細胞内トラフィックの意義と役割  
オーガナイザー 五十嵐道弘(新潟大学、医歯)、柚崎通介(慶應義塾大学、医)
- David A. Lewis ( Departments of Psychiatry, University of Pittsburgh, U.S.A. )  
Cognitive Dysfunction in Schizophrenia: Pathogenetic Mechanisms and Pathophysiological Processes  
小胞エンドサイトーシス・リサイクリングの分子メカニズム  
Molecular mechanisms underlying vesicle endocytosis and recycling  
オーガナイザー 高橋智幸(東京大学、医)、竹居孝二(岡山大学)
- 【 シンポジウム 】  
分子細胞神経科学 分野
- Virus Vector for Neuroscience (\*モーニングレクチャーを兼ねる)  
オーガナイザー 望月秀樹(順天堂大学)、Ronald L. Klein (Louisiana State University)  
プレシナプス研究の新展開 -分子構造とその機能-  
オーガナイザー 大塚稔久(カン研究所)、持田澄子(東京医科大学、第一生理)
- こころの分子基盤 Molecular Basis for the Mind  
オーガナイザー 和田圭司(国立精神神経センター)、三品昌美(東京大学、医)  
バイオ分子センサー:脳神経機能研究の新潮流  
オーガナイザー 岡田泰伸(生理学研究所)、野田昌晴(基礎生物学研究所)
- 分子から見た脳高次機能 多様な情報伝達系と個体レベルでの機能発現  
Molecular analysis of higher brain function - Multiple signaling pathways and their significance in the whole animal.  
オーガナイザー 岡部繁男(東京医科歯科大学)、山本雅(東京大学、医科研)  
成体脳で起こる神経新生:分子基盤と機能的意義  
Neurogenesis in the adult brain: molecular basis and function  
オーガナイザー 岡野ジェームス洋尚(慶應大学、医・生理学)、山口正洋(東京大学、医・生理学)
- 脳の多様性ーポストゲノムの新たな挑戦  
オーガナイザー 有賀純(理研 BSI)、小椋利彦(東北大学、加齢研)  
ニューロンの生存とレドックスを調節する低分子化合物  
オーガナイザー 木村英雄(国立神経精神センター)、佐藤拓己(岩手大学、工)
- Dynamic profiles of astrocytes in the brain information processing  
Organizers Yoshihisa Kudo (Tokyo University of Pharmacy and Life Science)、Shinichi Kohsaka (National Institute of Neuroscience)  
神経細胞死におけるカルパインの役割 The role of calpain in neurodegeneration  
オーガナイザー 山嶋哲盛(金沢大学、医)、西道隆臣(理研 BSI)
- Roles of neural adapter proteins -their neural  
遺伝子ノックアウトマウスから明らかにされた脂質メディエーターの機能  
オーガナイザー 植田弘師(長崎大学、医)、福嶋伸之(近畿大学、理工)

糖鎖科学と神経科学の融合による新展開

オーガナイザー 遠藤玉夫(東京都老人研)、橋本康弘(理化学研究所)

サイトカイン・栄養因子による神経発生・形成の制御

オーガナイザー 榎本秀樹(理研、発生・再生センター)、仙波恵美子(和歌山県立医科大学)

大脳皮質における細胞構築と神経回路の形成機構

オーガナイザー 山森哲雄(基礎生物学研究所)、山本巨彦(大阪大学、生命機能)

体内時計の神経分子生物学

オーガナイザー 石田直理雄(産業技術総合研究所)、岡村均(神戸大学、医)

GnRHニューロン:その特性と神経内分泌的調節

GnRH neuron: Intrinsic property and its neuroendocrine regulation

オーガナイザー 佐久間康夫(日本医科大学、生理)

神経シナプス可塑性を変化させる脳内性ホルモンと環境ホルモン:神経内分泌学の革新

オーガナイザー 川戸佳(東京大学)、井ノ口馨(三菱化学・生命科学研究所)

システム神経科学 分野

高磁場MRイメージングの最先端

Cutting edge of high-field MR imaging (モーニングレクチャーを兼ねる)

オーガナイザー 宮下保司(東京大学、医)、田中啓治(理研)

「脳を育む」神経科学倫理

Neuroethics of Nurturing the Brain

オーガナイザー ヘンシュ貴雄(理研 BSI)

脳の局所回路はどこまでわかったか:大脳皮質・海馬・視床

オーガナイザー 深井朋樹(理研 BSI)、金子武嗣(京都大学、医)

神経回路の形成、発達、機能発現 Formation, development and function of neural circuit

オーガナイザー 狩野方伸(金沢大学、医)、真鍋俊也(東京大学、医科研)

Recent Advances of Systems Neurophysiology in

the Oculomotor System

オーガナイザー 篠田義一(東京医科歯科大学)、福島菊郎(北海道大学)

痛覚認知の中枢メカニズム:分子からシステムまで  
オーガナイザー 柿木隆介(生理学研究所)、宮田麻理子(生理学研究所)

「概念」の発達と操作の神経メカニズム

Neuran mechanisms for development and manipulation of the "concept" オーガナイザー 入来篤史(東京医歯大学・理研 BSI)

スケジュール課題における報酬期待の脳内情報処理機構

オーガナイザー 設楽宗孝(産業技術総合研)、菅生康子(産業技術総合研)

睡眠と自律機能

オーガナイザー 本多和樹(東京医歯大学)、小山純正(福島県立医大学)

Neurobiology of sociality: mate-recognition, dominance hierarchy, context-dependence and theory of mind

オーガナイザー 水波誠(東北大学、生命科学)、松島俊也(名古屋大学、生命農学)

ブレイン - マシン・インターフェイスから脳の情報処理を見る

オーガナイザー 櫻井芳雄(京都大学、文)、飯島敏夫(東北大学、生命科学)

モデル神経系を利用した脳の情報処理パラダイムの解析

オーガナイザー 伊藤啓(東京大学、分子細胞生物学)、小田洋一(大阪大学、生命機能)

大脳基底核ネットワークの基礎研究 update:臨床応用を目指して

オーガナイザー 西昭徳(久留米大学)、藤山文乃(京都大学)

臨床病態神経科学 分野

自閉症の病因・病態研究 遺伝子・環境因子・神経画像からの多面的アプローチ

オーガナイザー 加藤進昌(東京大学、医)、中山敦雄(愛知県発達障害研)

神経変性疾患: 病態と治療の最前線

Neurodegenerative Disorders -The Frontiers of Molecular Pathologies and Therapeutics-  
 オーガナイザー 岡澤均(東京医科歯科大学)、  
 貫名信行(理研 BSI)

てんかん原性成立過程から見た脳の可塑性異常の解明と治療への応用

オーガナイザー 村島善也(東京都精神医学総合研)、  
 森本清(香川医科大学)

トランスレーショナルニューロサイエンス 難病ALSへの神経科学の挑戦

Translational Neuroscience -The challenge of current neuroscience towards ALS-

オーガナイザー 横田隆徳(東京医科歯科大学)、  
 高橋良輔(京都大学、医)

衝動制御とその障害の神経生物学 Neurobiology of Impulse Control and its Disorders

オーガナイザー 加藤忠史(理研 BSI)

統合失調症の神経科学 The neuroscience of schizophrenia.

オーガナイザー 倉知正佳(富山医科薬科大学)、  
 車地暁生(東京医科歯科大学)

気分障害の神経科学

オーガナイザー 功刀浩(国立精神神経センター)

疲労と意欲 Fatigue and motivation

オーガナイザー 渡辺恭良(大阪市立大学、医)、  
 定藤規弘(生理学研究所)

遺伝子多型から脳機能を探る Looking into brain function using genetic variants

オーガナイザー 吉川武男(理研 BSI)

精神疾患へのシステム神経生理学的アプローチ

オーガナイザー 加藤伸郎(京都大学、医)、  
 船橋新太郎(京都大学、人間・環境学)

## 第27回日本神経科学大会・第47回日本神経化学会大会合同大会 Neuro2004 の報告

第27回大会長 村上 富士夫

標記合同大会は2004年9月21日(火)～23日(木)

の3日間、大阪国際会議場(グランキューブ大阪)において開催されました。大阪大学大学院医学系研究科の遠山正彌教授を大会長とする第47回日本神経化学会大会との共催で、3年前の合同大会 Neuro2001と同じコンビで行われました。これまで21回大会から3年ごとに同じ神経化学会との合同大会が開催されており、さらに2年後の第30回大会でも同様の合同大会が予定されています。

今合同大会の発表演題数は、口演が1043題、ポスターが246題、特別講演・プレナリーレクチャーが各3題ずつ、シンポジウムが36主題で計190題、時実賞受賞講演1題を合わせて合計すると1486題であり、3年前の合同大会にほぼ匹敵する規模でした。

参加者数は事前登録者が1906名(正会員1280名、非会員50名、学生会員476名、学生非会員100名)、当日登録者数が1038名(正会員358名、非会員299名、学生会員60名、学生非会員321名)で、総計3030名(招待86名を含む)のご参加を頂きました。近年の傾向であります、多数の学生の参加が目立ち、今大会も参加者全体の約1/3を占めていました。次回大会はさらに学生の参加費の軽減や若手研究者中心に交流を図る懇親会などの企画があり、次代の研究を担う世代を重視しながら神経科学研究の発展を目指すという良い方向性になっているのではないかと思います。また前回の大会以来押し進められてきた大会の国際化が一段と進み、各会場では英語での熱心な議論が見られました。

その他、7企画13演題のランチョンセミナー、39社の機器展示、10社の書籍展示などが行われ参加者に有用な情報が提供されるとともに便宜が図られました。

さらに参加登録・演題登録はこれも近年定着しておりますUMINサイトでの電子化された方法を取りました。プログラム集の冊子とCD-ROMによる抄録を配布しました。これも定着していけば電子化・ペーパーレス化というこれからの流れになっていくのではないかと思います。

大会前日午後には、同じ大阪国際会議場を会場に、北里大学大学院医療系研究科の養老孟司先生、ATR脳情報研究所の川人光男先生、大阪大学大学院医学系研究科の武田雅俊先生に講師をお願いして、

市民公開講座を開きました。これは文部科学省平成16年度科学研究費補助金「研究成果公開促進費」の助成を受けて行ったもので、約400名の熱心な市民の方々の参加を得て、好評の中、無事終了しました。

神経化学会との共催ということもあり、大会当日の運営に当たっては大阪大学医学研究科の遠山研究室ならびにそのご関係の奈良先端大、大阪市大、奈良医大の研究室の皆様、そして大阪大学大学院生命機能研究科山本研究室の皆様にもお手伝いいただきました。様々な新たな企画を導入し、また不慣れなこともあり、皆さまにご迷惑をおかけした点もありましたが、皆さまのご協力を得て滞りなく大会を終えることができました。最後になりましたが、ご参加頂きました本学会会員の皆様、大会の企画・運営にご尽力・ご協力頂きました全ての方々、企業・団体の皆様に、この場を借りて心から厚く御礼を申し上げます、ご報告とさせていただきます。

## 動物輸入に関する アンケート調査の結果報告

輸入動物を原因とする人の感染症の発生を防ぐため、厚生労働省は平成17年9月1日から「動物の輸入届出制度」を導入します。この制度では、動物(哺乳類及び鳥類)等を輸入する際には、動物の種類や数量を記載した届出書とそれらの動物の感染症に関する安全性を証明した輸出国政府機関発行の衛生証明書を提出することが求められます。さらに齧歯目に属する動物の場合は、日本の厚生労働大臣が定める基準に適合するものとして輸出国の政府機関の指定した飼育施設(保管施設)で保管されていた動物しか輸入できなくなります。本制度の施行後、輸入が許可される国や齧歯目の保管施設はいまだ明らかになっておらず、今後遺伝子改変マウスを含めた実験動物の輸入が大きく制限され、研究に重大な支障の生じる可能性が危惧されています。

日本神経科学学会では、厚生労働省に対して、実験動物の輸入が必要以上に制限されないように「動物の輸入届出制度」の運用面での働きかけを行なっていく考えです。このための資料として、平成17年1月24日から2月24日にかけて、動物輸入実績に関

するアンケート調査を実施いたしました。会員の皆様には迅速なご対応をいただき、多数の有益な回答をいただきました。この場をお借りして皆様のご協力に深く感謝申し上げます。

下記に、動物輸入実績に関するアンケート調査の集計結果を報告いたします。概要としては、動物種ではマウス(特に、遺伝子改変マウス)の輸入頻度が極めて高く、その他ラット、ハムスター、フェレットが輸入されています。(なお、今回の調査では、農林水産省動物検疫所において検疫を受けたサル等の輸入動物は対象となっております。)輸出国としては、アメリカからの輸入件数が最も高いですが、その他にヨーロッパ、アジアの諸国など、多くの国からの輸入があります。輸出施設としては、ジャクソン研究所からの輸入が多いですが、大学や他の研究所からの輸入の件数も多いことがわかります。

日本神経科学学会では、「輸出施設リスト」とともに「動物輸入に関するアンケート調査の集計結果」を厚生労働省に提出し、本制度の運用面での対応を働きかけます。特に、「輸出施設リスト」にあげた施設の保管施設としての登録を早急に行なってもらい、制度導入後もこれらの施設からの動物の輸入に支障が生じないような対策を講じていただけるように要望します。

「輸出施設リスト」については、2002年1月1日から2004年12月31日までの3年間に輸入実績のあった施設ばかりでなく、それ以前あるいはその後に輸入実績のあった施設および今後輸入の可能性のある施設として回答のあったすべての施設を含んでおります。これらの施設に加えて、さらに追加して保管施設としての登録を希望する施設があれば、動物実験・倫理委員会まで連絡してください。引き続き、厚生労働省に対して保管施設としての登録を要望していきます。なお、追加登録の希望をお持ちの方は、輸出国名、輸出施設の名称、所在地、電話番号、メールアドレス、動物種に関する情報を添えて、電子メールで調査担当(福島県立医科大学医学部・小林和人、kazuto@fmu.ac.jp)までご連絡ください。

動物輸入に関するアンケート調査の集計結果

調査対象期間:2002年1月1日から2004年12月31

日までの3年間

1)回答者数:82名、実績報告者数:55名

\*上記人数には機関あるいは施設を代表して回答をいただいた場合を含みます。

2)輸入件数(頭数)

(1)マウス:227件(2287匹)

遺伝子改変:213件(2181匹) その他:14件(106匹)

(2)ラット:4件(61匹)

遺伝子改変:3件(31匹)その他:1件(30匹)

(3)ハムスター:3件(50匹)

(4)フェレット:3件(35匹)

(5)合計:237件(2433匹)

3)輸出国

アメリカ(192件)、カナダ(6件)、スイス(13件)、ドイツ(10件)、スウェーデン(4件)、フランス(1件)、

イギリス(1件)、イタリア(1件)、オランダ(1件)、イスラエル(3件)、韓国(2件)、中国(1件)、オーストラリア(2件)

4)輸出施設の概要

大学・研究所等(99件)、ジャクソン研究所(95件)、動物飼育・遺伝子改変受託業者等(42件)、その他(1件)

5)輸出施設リスト

日本神経科学学会ホームページ(<http://www.jnss.org/indexj.html>)を参照。本リストには、調査対象期間内およびそれ以前あるいはその後に輸入実績のあった施設および今後輸入の可能性のある施設として回答のあったすべての施設を含みます。

動物実験・倫理委員会 委員長 伊佐 正  
調査担当委員 小林和人

通し番号	輸出国名	輸出施設の名称	輸出施設の所在地	輸出施設の電話番号	輸出施設のメールアドレス	動物種
1	USA	The Jackson Laboratory	600 Main Street, Bar Harbor, Maine 04609	1-207-288-6000	micenews@jax.org	マウス
2	USA	The Jackson Laboratory	600 Main Street, Bar Harbor, Maine 04609	1-207-288-5845	pubinfo@jax.org	マウス
3	USA	The Jackson Laboratory	600 Main Street, Bar Harbor, Maine 04609	Fax 207-288-6150	jaxservices@jax.org	マウス
4	USA	The Jackson Laboratory	600 Main Street, Bar Harbor, ME 04609	1-800-422-6423	orderquest@jax.org	マウス
5	USA	Taconic Inc.	273 Hover Avenue Germantown, NY 12526-5320	518-537-6208	custserv@taconic.com	マウス
6	USA	Taconic Farms Inc.	273 Hover Ave Germantown, NY 12526	1-518-537-5200	vwol@taconic.com	マウス
7	USA	Charles River Laboratories, Inc.	251 Ballardvale Street Wilmington, MA 01887-1000	978-658-6000 800-522-8287 FAX:800-992-7329	comments@criver.com	マウス、ラット
8	USA	National Institutes of Health	9000 Rockville Pike, Bethesda MD 20892	301-496-4391		マウス
9	USA	Harvard Medical School (Department of Cell Biology)	240 Longwood Avenue, Boston, MA 02115	617-432-2366		マウス
10	USA	University of California at San Francisco School of Medicine	San Francisco, CA 95616	415-502-1098		マウス、ラット
11	USA	University of California at San Francisco	Old Davis Road, Building R-1, Davis, CA 95616	415-476-2850		マウス
12	USA	University of California at San Francisco (Department of Physiology)	San Francisco, California 94143			マウス
13	USA	BIO BREEDERS INC.	116 Templeton Parkway Watertown, MA 02472 USA	617-926-5278		ハムスター
14	USA	The Rockefeller University	1230 York Avenue, New York, NY 10021	212-327-8512	martink@rockefeller.edu	マウス
15	USA	The Rockefeller University	1230 York Avenue, New York, NY 10021	212-327-8800	korres2@imap.rockefeller.edu	マウス
16	USA	University of Texas Southwestern Medical Center at Dallas	5323 Harry Hines Blvd., Dallas, TX 75390-9037	1-214-648-5511		マウス
17	USA	University of Texas Southwestern Medical Center at Dallas	5323 Harry Blvd, Dallas, TX 75390-9037	214-648-1835		マウス
18	USA	Washington University School of Medicine	660 S. Euclid Avenue, Campus Box 8061 Saint Louis, MO 63110-1093	314-362-3700		マウス
19	USA	Washington University	660S, Euclid Avenue, Campus Box 8061, Saint Louis, MO 63110-1093	1-314-362-3700	Ken@dcm.wustl.edu	マウス
20	USA	Cornell University Medical College	425 East 61 Street New York, NY 10021			マウス

21	USA	Lexicon Genetics Inc.	4000 Research Forest Drive, The Woodlands, TX 77381	281-364-0100		マウス
22	USA	Lexicon Genetics Inc.	8800 Technology Forest Place The Woodlands, TX 77381-1160	281-863-3000	ramiror@lexgen.com	マウス
23	USA	Beth Israel Deaconess Medical Center Endocrinology & Harvard Medical School	99 Brookline Ave., Boston, MA 02215	617-667-4352		マウス
24	USA	Genome systems	8620 Pennell Drive st. Louis, Missouri 63114	314-692-2376 (ext. 43)	lwitte@genomesystems.com	マウス
25	USA	New York University School of Medicine	550 First Avenue, New York, NY10016	212-263-5308		マウス
26	USA	Harlan Sprague Dawley, Inc.	298 S Carroll Rd Indianapolis IN 46229	317-894-7521		ラット
27	USA	The Scripps Research Institute	10550 North Torrey Pines Road La Jolla, CA 92037	858-784-8048		マウス
28	USA	The Scripps Research Institute	10550 North Torrey Pines Road La Jolla, CA 92037	858-784-2978	transfer@scripps.edu	マウス
29	USA	The Burnham Institute	10901 North Torrey Pines Road La Jolla, CA 92037	858-646-3100		マウス
30	USA	University of Pittsburgh	W1311 Biomedical Science Tower, Pittsburgh, Pennsylvania	412-648-2576		マウス
31	USA	Harvard University, Biological Laboratories	16 Divinity Ave., Room B050, Cambridge, MA 02138	617-496-9989		マウス
32	USA	Albert Einstein College of Medicine	223 Forchheimer, 1300 Morris Park Ave, Bronx, NY 10461			マウス
33	USA	Yale University	P. O. Box 208003, New Haven, CT 06520-8003	785-2526		マウス
34	USA	St. Jude Children's Research Hospital	332 N. Lauderdale, Memphis, TN38105	901-495-2253		マウス
35	USA	National Institutes of Health/NIAID (Laboratory of Immunology)	12441 Parklawn Drive, Rockvill, MD 20852	1-301-402-4595	nnoben@nih.gov	マウス
36	USA	Yale University Connecticut Mental Health Center	New Haven, CT 06520			マウス
37	USA	National Cancer Institute	Frederick, MD 21702	301-846-1542	astotler@ncifcrf.gov	マウス
38	USA	Stanford University	279 Campas Drive, Stanford, CA 94305-5323	650-723-3685	crabtree@cmgm.stanford.edu	マウス
39	USA	MIT-RIKEN	77 Massachusetts Avenue, E17-353 Cambridge, MA 02139	617-253-1757		マウス
40	USA	University of Cincinnati Medical Center	2600 Clifton Avenue, Cincinnati, Ohio 45221	513-558-2846		マウス
41	USA	Ute Hochgeschwender (Development Biology Program Oklahoma Medical Research Foundation)	825 Northeast 13th Street Oklahoma City, OK 73104	405-271-7083		マウス
42	USA	University of California at Los Angeles School of Medicine, Neurophychiatric Institute	630 CE Young Drive South, IV.211 CHS, Los Angeles, CA 90095-1718	310-825-7281		マウス
43	USA	University of California at Los Angeles David Geffen School of Medicine	Box 951718, Los Angeles, CA 90095	310-825-1826	dbiggs@mednet.ucla.edu	マウス
44	USA	University of California at San Diego	9500 Gilman Drive, La Jolla CA 92093-0614	858-822-5867		マウス
45	USA	NIEHS	P. O. Box 12233 Research Triangle Park, NC 27705	919-541-7630		マウス
46	USA	Duke University Medical Center	DUMC3180 Vivarium, Research Drive Durham, NC 27710	1-919-684-0822		マウス
47	USA	Harvard School of Public Health	677 Huntington Avenue, Boston MA 02115	617-432-4507		マウス
48	USA	Johns Hopkins University Animal Service	720 Rutland Avenue /Ross 459 Baltimore, Maryland 21205-2196	410-955-3273		マウス
49	USA	California Institute of Tehnology	1200 E. California Blvd/MC 156-29 Pasadena, CA 91125	626-395-3948		マウス
50	USA	California Institute of Technology (Division of Biology)	147-75 Pasadena, California 91125			マウス
51	USA	Oklahoma Medical Research Facility	825 Northeast 13th Street Oklahoma City, OK 73104	405-271-6673		マウス
52	USA	inGenious targeting Lab.	25E. Looproad STE106 Stony Brook, NY	1-631-444-6640		マウス
53	USA	Massachusetts General Hospital	149 Thirteenth Street Suite 1304 Chasrletown, MA 02129	617-724-2720	asumski@patner.org	マウス
54	USA	National Institutes of Health, National Institute on Drug Abuse (Division of Intramural Research, Molecular Neurobiology Branch)	5500 Nathan Shock Dr. Baltimore, MD 21224	1-410-550-2843 (ext 147)	guh1@intra.nida.nih.gov	マウス
55	USA	Marshall Farms USA Inc.	5800 Lake Bluff Road North Rose, NY 14516	315-587-4485		フェレット
56	USA	National Institutes of Health/NIHM	Building 49, 49 Convent Drive, MSC 4405 Bethesda, MD 20892-4405	1-301-451-3499	nakazawK@intra.nimh.nih.gov	マウス
57	USA	Baylor College of Medicine	Houston, TX 77030			マウス
58	USA	The Ohio State University (Department of Neuroscience and the Center for Molecular Neurobiology)	168 Rightmire Hall, 1060 Carmack Road, Columbus, OH 43210			マウス
59	USA	University of Connecticut Health Center (Department of Genetics and Developmental Biology)	Farmington, CT 06030			マウス
60	USA	Massachusetts Institute of Technology, The Picower Center for Learning and Memory, RIKEN-MIT Neuroscience Research Center, Center for Cancer Research (Departments of Biology and Brain and Cognitive Sciences)	Cambridge, MA 02139			マウス

61	USA	Columbia University	630 West, 168th Street, Black Bldg. 17-07, New York, NY 10032	1-212-342-130	sdyl@columbia.edu	マウス
62	Canada	Queen's University (Biology Department)	Kingston Ontario Canada K7L 3N6	1-613-533-6349	wynneedy@biology.queensu.ca	ハムスター
63	Canada	University of Toronto, Hospital for Sick Children (Brain and Behaviour Research)	555 University Avenue, Toronto, Ontario M5G1X8	416-813-8715		マウス
64	Canada	Toronto University	7-081 Queen, 30 Bond Street, Toronto, Ontario M5B 1W8			マウス
65	Canada	Sunnybrook and Women's College Health Science Centre	2075 Bayview Avenue Room S804 Tronto, ON M4N 3M5	416-480-6100		マウス
66	Canada	Ottawa Health Research Institute	725 Parkdale Avenue Ottawa, ON K1Y 4E9	613-761-4395		マウス
67	Canada	McGill University	Montreal, Quebec H3G 1Y6	514-398-3510		マウス
68	Switzerland	Novartis Pharma AG	CH 4002 Basel	41 61 324 32 76		マウス
69	Switzerland	Novartis Pharma AG	CH 4002 Basel	41-61-3245023		マウス
70	Switzerland	Novartis Pharma AG	CH 4002 Basel	41616971111	p_herman.van_der_putten@pharma.novartis.com	マウス
71	Switzerland	Novartis Pharma AG	WSJ386.7.09, P.O. Box, 4002 Basel	41 61 324 64 94		マウス
72	Switzerland	University of Basel	Klingelbergstrasse 50 CH-4056 Basel	41-61-267-1632		マウス
73	Switzerland	University of Basel	Petersgraben 35, CH-4003 Basel	4161267167	martin.gassmann@unibas.ch	マウス
74	Switzerland	Zurich University	Wintorthureratrasse 190, CH-8057 Zurich	01-635 54 52		マウス
75	Switzerland	University of Stuttgart	Wolfenstrasse4 CH-4414 Fullinsdorf	41-61-906-4242		マウス
76	Germany	Universitaet Bonn	D-53117 Bonn			マウス
77	Germany	University of Bonn (Laboratory of Molecular Neurobiology, Department of Psychiatry)	53105 Bonn		neuro@uni-bonn.de	マウス
78	Germany	University of Heidelberg (Central Animal Laboratory)	Im Neuenheimer Feld 347, D-69120 Heidelberg	49-6221-545753	j.weiss@zmbh.uni-heidelberg.de	マウス
79	Germany	University of Heidelberg (Institute of Pharmacology)	69120 Heidelberg			マウス
80	Germany	Max-Planck-Institute for Medical Research	Jahnstrabe 29, D-69120 Heidelberg	49-6221-486-106		マウス
81	Germany	Max-Planck-Institute of Psychiatry	Kraepelinstrasse 2-10 D-80804 Munchen	49-89-30622-(1)		マウス
82	Germany	GSF-Research Center (Institute for Mammalian Genetics)	Ingolstaedter Landstr. 1, 85764 Neuherberg			マウス
83	Sweden	Kalorinska Institutet	Nanna Schwarzag 2, Baksidan Djurhset, Stockholm SE-171 77	46-52487933	Bertil.Fredholm@fyfa.ki.se	マウス
84	Sweden	Uppsala University	BMC, Box 587, 751 23 Uppsala			マウス
85	Sweden	Lund University	BMC A11, 22184 Lund			マウス
86	France	Institut de Genetique et de Biologie Moleculaire et Cellulaire (IGBMC)	Parc d'Innovation 1 rue Laurent Fries 67404 Illkirch Cedex	03 88 65 34 63	metzger@igbmc.u-strasbg.fr	マウス
87	France	ICGM INSERM	Paris			マウス
88	UK	Harlan Hillcrest, Dodgeford Lane	Belton, Loughborough, LE12 9TE	01530 222794		マウス
89	UK	University of Dundee	Dundee DD1 5EH	44-1382 344000 ext. 3908	a.newman@dundee.ac.uk	マウス
90	Italy	European Molecular Biology Laboratory (EMBL)	Via Ramarini 32 00016 Monterotondo-Scalo	06-90091215		マウス
91	Netherlands	University of Nijmegen	6500 HD Nijmegen			マウス
92	Israel	The Weizmann Institute of Science	Rehovot 76100	972-8-9344520		マウス
93	Israel	Quark Biotech Inc.	Weizmann Science Park, Nes Ziona 70400 (P.O. Box 4071)	972-8-930-5102	elenaf@qbi.co.il	マウス
94	Korea	National CRI Center for Calcium and Learning	39-1 Hawolgok-dong, Seongbuk-ku Seoul 136-791	82-2-958-6931		マウス
95	Korea	National Creative Research Initiative Center for Calcium and Learning, Korea Institute of Science and Technology	Seongbuk-ku, Seoul 136-791	82-2-958-6931	shin@kist.re.kr	マウス
96	Korea	National CRI Center for Calcium and Learning, and Department of Life Science, Pohang University of Science and Technology.	Pohang 790-784			マウス
97	China	Institute of Molecular Biology, The University of Hong Kong	Kadoorie Biological Sciences Building, Hong Kong, SAR	852-2299-0783 FAX:8852-2817-1006		マウス
98	Australia	University of Queensland	ST LUCIA 4072 QLD	07-3365-1267		マウス
99	Australia	Animal Resources Centre (担当者 Ozgene Pty Ltd.)	P.O. Box 1180, Canning Vale WA 6970 (担当者所在地: 5 Parker Place, Bentley WA 6102, Australia)	61-8-9332-5033 (担当者: 61-8-9212-2200)	info@arc.wa.gov.au (担当者: ozgene@ozgene.com)	マウス
100	Australia	Garvan Institute of Medical Research	384 Victoria Street, DARLINGHURST, NSW 2010, Australia	61-2-9295-8111	t.gainsford@garvan.org.au	マウス

## INFORMATION

## シンポジウム・研究会



AWCIBR2005

23rd International Australasian Winter  
Conference on Brain Research

DESCRIPTION: To promote interaction  
between academic & clinical brain  
research disciplines including anatomy,  
biochemistry, kinesiology, neural  
modelling, neurology, pharmacology,  
physiology, and psychology. Intensive  
morning, late afternoon and evening  
sessions with free time mid-day for  
interactions and activities.

DATE: Starts: 27 Aug 2005  
Ends: 31 Aug 2005

LOCATION: Copthorne Resort Hotel,  
Queenstown, New Zealand

CONTACT: Prof. Cliff Abraham  
e-mail: awcibr@psy.otago.ac.nz

REGISTRATION: <http://www.awcibr.org>



千里ライフサイエンス

セミナー

ブレインサイエンスシリーズ

第18回

「ストレスに耐える脳、耐えられ  
ない脳」

日時:平成17年10月14日(金)10:00 ~ 17:10

場所:千里ライフサイエンスセンタービル5階  
ライフホール着眼点:ますます複雑化する現代  
社会において、うつ病・PTSD・摂食障害な  
どのストレス関連疾患が増え続けている。  
とくに、わが国の年間自殺者は3万人を超え、  
うつ病は社会問題となっている。我々の脳は  
ストレスとどのように闘い、またどのような  
条件下でそれが破綻していくのか。本セミ  
ナーでは、基礎医学・臨床医学のそれぞれの視  
点で、ストレス脆弱性の形成、ストレスへの適  
応と適応破綻の脳内分子機構についてお話し  
いただき、ストレス関連疾患の予防と治療の戦  
略を考える手がかりとしたい。

コーディネーター:

大阪大学大学院医学系研究科 遠山正彌  
和歌山県立医科大学 仙波恵美子

プログラム:

1. 脳の発達とストレス脆弱性

山口大学医学部高次神経科学 中村彰治

2. BDNFとうつ病

千葉大学大学院医学研究院精神医学 橋本謙二

3. ストレスから疲労状態へ - 疲労の脳科学

大阪市立大学大学院医学研究科システム神経  
科学 渡辺恭良

4. 慢性ストレスによるうつ病の発症機序と漢  
方

(株)ツムラ 医薬評価研究所 溝口和臣

5. ストレス関連障害の脳イメージング

東北大学大学院医学系研究科機能薬理学 谷  
内一彦

6. PTSDの脳メカニズム

東京大学大学院医学系研究科精神医学 笠井  
清登

定員:300名

参加費:

会員(大学・官公庁職員、当財団の賛助会員)

3,000円

非会員 5,000円、学生 1,000円

申し込み要領:

(1)氏名、勤務先、〒所在地、所属、電話およ  
びFAX番号を明記の上、郵便、FAXまたはE-mail  
で下記宛お申し込み下さい。

(2)事務局より受付の通知を返送いたしますので、通知書に記載した振り込み先口座に参加費をお振り込み下さい。

(3)入金を確認後、通常2週間以内に領収書兼参加証をお届けいたします。

申込先:

(財)千里ライフサイエンス振興財団ブレインサイエンス係

〒560-0082

大阪府豊中市新千里東町1-4-2

千里ライフサイエンスセンタービル8階

TEL 06-6873-2001 FAX 06-6873-2002

E-mail tkd-lsf@senri-ic.co.jp

one copy of 3 selected papers published by the candidate after 2003;

a letter of recommendation/presentation by an internationally recognised expert describing the candidate's scientific achievements and standing;

a summary (max 2 pages) outlining the main scientific contributions of the candidate;

the electronic version (on diskette or CD) of the above documents (curriculum vitae, and summary of the contributions in Word format; articles and letter of presentation in PDF format).

The nominations will be evaluated by the Prize Committee of the Dargut and Milena Kemali Foundation. The recipient of the prize will be notified by July 2005. The Prize will be presented at the Congress of the Federation of European Neuroscience Societies (FENS) in Vienna, Austria, in July 08-12<sup>th</sup> 2006, where the prize recipient will give a lecture (sponsored by the Dargut and Milena Kemali Foundation)

## 研究助成



### Fifth International Prize of the Dargut and Milena Kemali Foundation for Basic and Clinical Neurosciences

(call for applications 2005)

The Fifth International Prize of 20,000 Euro will be awarded in 2006 by the Dargut and Milena Kemali Foundation to a scientist under 45 years of age at December 31, 2004, who has made outstanding contributions to Basic and Clinical Neurosciences.

Nominations should be sent to: The Dargut and Milena Kemali Foundation Riviera di Chiaia 168 80122 Napoli, Italy (fax +39-081-7611800, e-mail dmkfneur@tin.it). They should be received by March 15, 2005 (before 5 pm), and accompanied by:

a Curriculum vitae of the candidate with a complete list of publications (no Abstracts);



### 第5回(平成17年度)

財団法人材料科学技術振興財団 山崎貞一賞

応募・候補者推薦のご依頼

平成17年2月1日

各位殿

財団法人 材料科学技術振興財団

理事長 増島 勝

この度、第5回(平成17年度)「財団法人材料科学技術振興財団山崎貞一賞」の候補者募集を開始いたしました。本賞におきましては自薦、他薦を問いません。ご自身の業績・成果が賞の趣旨に合致すると思われる方は奮って応募下さい。また、本賞の趣旨に沿う、優れた人をご存知の場合は、是非候補者としてご推薦をいただきたくご依頼申し上げます。ご貴殿の組織に限らず、

国内広くからの候補者のご推薦をいただければ幸いです。

ご応募・ご推薦は、別紙「募集要綱」に従い、同封の「候補者応募・推薦書」にご記入の上、平成17年4月30日必着で当財団にお送り下さいますようお願い申し上げます。

本賞は、日本国内における研究開発において、実用化につながる優れた科学技術上の貢献、優秀な技術の開発・育成への寄与、または寄与すると見られる前記内容の技術・研究に携わる人に対して贈呈されます。

授賞対象分野は、材料、半導体及び半導体装置、計測評価、バイオサイエンス・バイオテクノロジーの4分野とし、賞状、並びに副賞(メダル・賞金300万円)を贈呈します。

なお、過去に応募し、選に漏れた方の再応募も歓迎します。更なる開示可能な情報、その後の業績なども加えていただき、応募書類を作成、ご提出いただければ幸いです。

選考は本賞の選考委員会が行い、理事会の審議・承認を経て、受賞者を決定いたします。

ご多忙の折りとは存じますが、本賞の趣旨をご理解の上、よろしくご高配のほどお願い申し上げます。

当財団は昭和59年8月の設立以降、「先端的な科学技術分野における新材料に関する基礎的研究を行うとともに、新材料の解析・評価を実施すること等により材料科学技術の振興を図り、もって我が国の経済社会の発展と国民生活の向上に寄与すること」を目的として幅広い活動を展開して参りました。

「財団法人材料科学技術振興財団山崎貞一賞」は、科学技術水準の向上とその普及啓発に寄与することを目的とし、また、当財団の初代理事長を務めた故山崎貞一氏の科学技術および産業の発展に対する功績、人材の育成に対しての貢献を記念して創設された賞であります。

#### 【問い合わせ、応募・候補者推薦書送付先】

財団法人材料科学技術振興財団 山崎貞一賞事務局  
住所：

〒157-0067 東京都世田谷区喜多見1-18-6

T E L :03-3415-2200(直通)

F A X :03-3415-5987

E-mail:prize@mst.or.jp URL:http://www.mst.or.jp/prize/



## (財)加藤記念バイオサイエンス研究振興財団 第17回加藤記念国際交流 助成について

〔第17回加藤記念国際交流助成募集要項〕

1. 助成対象者:平成17年4月1日から平成18年3月31日の期間に海外で開催されるバイオサイエンス分野の学会、シンポジウム等で研究発表を行う日本国内在住の研究者。

2. 申込資格: 応募締切日に35才以下の方(医学系の大学卒業者は37才以下の方)。

3. 助成内容: 所要経費の一部を援助する。

4. 助成金額: 総額750万円。

5. 援助件数: 30件程度(前期;20件程度、後期;10件程度)。

6. 応募方法: 当財団所定の申請用紙に必要事項を記入の上、当財団に直接申し込む。

7. 応募締切:

(1)前期;4/1~9/30の期間に発表される方は、平成17年5月31日。

(2)後期;10/1~翌年3/31の期間に発表される方は、平成17年8月31日。

8. 審査方法: 当財団の選考委員による審査の上、評議員会議長および理事長の承認を得て決定。

9. 申請書の請求先: 下記あて「はがき」、「ファクシミリ」または「メール」にてご請求ください。

10. 助成を受けられた方はA4 1~2枚程度の報告書を提出して下さい。当財団の「財団年報」に掲載する予定です。

11. 助成が決定した場合、氏名、所属機関、研究テーマ、参加学会名等を財団年報、ホームページ等により公開いたします。ご了承下さい。

連絡先:

(財)加藤記念バイオサイエンス研究振興財団

住所: 〒194-8533 東京都町田市旭町3-6-6

電話:042-725-2576 FAX:042-722-8614

E-mail:kato.zaidan@kyowa.co.jp

担当: 持田顕一

### 公益信託



## 成茂神経科学研究助成基金 2005年度応募者募集の お知らせ

当基金は、下記募集要項により本年度応募者を募集致します。

### 記

#### [ 募集要項 ]

#### 1. 助成対象

(1) 神経科学の研究に対する研究費の補助、奨励金の交付。

助成金額:1件あたり30～50万円程度

(2) 神経科学に関する海外の学会に参加・発表するための渡航費の補助

(対象 平成17年7月～平成18年6月までに開催される海外での学会)

助成金額:1件あたり10～20万円程度

(3) 神経科学に関する講演会・研究集会等の開催、外国学者の招聘又は論文発表、図書の刊行等に対する費用の補助。

助成金額:1件あたり20～30万円程度

#### 2. 応募資格

(1)国内の研究機関に所属する研究者とします。

(2)学部生・大学院生は対象外とする。

(3)若手研究者(40才以下)を優先する。

(4)申込は一人1対象項目とする。

#### 3. 応募期限 2005年5月31日(必着)

#### 4. 応募要項請求先

応募要領及び申込書は、返信用封筒(長形3号、80円切手)を同封の上、下記宛請求して下さい。

<公益信託 成茂神経科学研究助成基金事務局>  
〒100-8212

東京都千代田区丸の内1-4-5

三菱信託銀行リアル受託業務部 受託相談グループ

## 公 募



## 京都大学大学院理学 研究科生物科学専攻 「生物物理学系」 入試説明会のお知らせ

研究テーマや研究生活についての情報を提供する大学院入試説明会を、下記のとおり東京と京都で開催いたします。

京都会場 京都大学理学部2号館120号室  
(京都市左京区京大北部キャンパス)

2005年4月16日(土) 午後1時15分(1時入場)～午後5時

東京会場 丸ビル8階カンファレンススクエア Room2 (東京駅丸の内口すぐ)

2005年4月23日(土) 午後1時30分(1時15分入場)～午後4時30分

当日は、受付で各講座の紹介パンフレット等をお渡しする予定です。

プログラムなどの詳細と入試関連情報を掲載した

生物物理学教室ホームページ [http://](http://www2.biophys.kyoto-u.ac.jp/)

[www2.biophys.kyoto-u.ac.jp/](http://www2.biophys.kyoto-u.ac.jp/)

生物科学専攻院試情報 [http://www.pri.kyoto-u.ac.jp/insei/inshi\\_info/](http://www.pri.kyoto-u.ac.jp/insei/inshi_info/) もご覧下さい。

お問い合わせ先: [inshi@em.biophys.kyoto-u.ac.jp](mailto:inshi@em.biophys.kyoto-u.ac.jp)

## (独)科学技術振興機構 先端計測分析技術・機器 開発事業



## 「超高速バイオナノス コープの開発」に関する 研究員の公募

公募人員:1名(博士の学位を有するかまたは3月末までに取得見込みの30歳前後)

研究課題:超高速ビデオカメラを接続した生物

顕微鏡による生命現象の解明

着任時期:平成17年4月(それ以前でも可)

採用期間:2年間(5年まで延長できる可能性あり)

給与:379,000円/月

応募方法:<http://www.soc.nii.ac.jp/psj/future/f-koubo.html>



## 東京大学大学院理学系 研究科物理学専攻 助教授公募

1. 募集人員: 助教授、1名
  2. 所属: 東京大学大学院理学系研究科物理学専攻
  3. 専門分野等: 生物物理学理論(生体分子シミュレーション、システム生物学、脳の理論などを含む)
  4. 着任予定日: 決定後できるだけ早い時期
  5. 応募資格: 特になし
  6. 必要書類:
    - 履歴書
    - 研究業績リスト
    - 研究業績概要(2000字以内)
    - 研究計画(2000字以内)
    - 主要論文別刷又はコピー5編以内(各2部)
    - 照会可能者3名の氏名・職名・e-mail address
- \* 封筒に「生物物理学助教授応募書類在中」と朱書き、簡易書留で送付のこと。  
書類は原則として返却いたしません。

7. 応募締め切り: 2005年4月30日(土)

8. 書類提出先:

〒113-0033

東京都文京区本郷 7-3-1

東京大学大学院理学系研究科物理学専攻  
専攻長 江口徹

9. 問い合わせ先:

〒113-0033

東京都文京区本郷 7-3-1

東京大学大学院理学系研究科物理学専攻事務室  
教務担当

電話 03-5841-8866

e-mail: kyomu@phys.s.u-tokyo.ac.jp



## 理化学研究所脳科学総合 研究センター

「脳を創る領域」

## チームリーダーおよびユニットリーダー公募のお知らせ

理化学研究所・脳科学総合研究センター (<http://www.brain.riken.jp>)では、「脳を創る」領域を再編し、これに伴い、複数の新しいチームおよびユニットのリーダーを募集します。本研究領域は、脳の情報処理の仕組みを計算理論により解明する「計算論的神経科学」および脳の仕組みにヒントを得た脳型の情報科学技術を確立する「脳型計算論」の二つのグループで編成します。研究テーマとして、たとえば、計算論的神経科学の諸分野、脳型ロボット工学、脳型情報技術開発、脳の言語システム、数理脳科学、などが考えられますが、これらに限定されるわけではありません。応募者が各自で提案してください。

チームリーダーは研究費を受け、5、6名程度の研究員あるいはテクニカルスタッフからなる研究チームを組織して研究を行います。ユニットは小型で、2、3名程度の構成です。チームリーダーおよびユニットリーダーともに、年度毎の雇用契約で、給与は、経験・能力・実績に応じた年俸制です(その他の待遇は当研究所規程による)。また、5年ごとに国際評価委員会による評価を受け、良い評価を受けた場合は研究チームを更新でき、ユニットは途中でチームに拡大することもあります。採用の審査に当たっては、領域の研究目標に適ったユニークで独創的な研究計画とともに、脳センターの他の研究チームと協力して研究を進展させていく方向が重視されます。

応募者は1)履歴書、2)発表論文リスト、3)これまでの主な研究成果、4)これからの研究計画(A4用紙4枚以内)、5)3名の照会可能者の名前と連絡先を以下まで提出してください。

理化学研究所・脳科学総合研究センター・サーチ小委員会 22

〒351-0198 埼玉県和光市広沢 2-1

FAX: 048-462-4796

E-mail: search22@brain.riken.jp  
応募締切：2005年5月31日  
質問は上記電子メールアドレス、サーチ小委員会22まで。

\*\*\*\*\*  
Laboratory Head and Unit Leader  
Positions in the Area of "Creating  
the Brain"

The RIKEN Brain Science Institute (BSI), Japan's largest international neuroscience institute, is seeking outstanding applicants for several fulltime laboratory head and unit leader positions to develop its interdisciplinary research area of "Creating the Brain". This area comprises a "Computational Neuroscience Group" that will focus on developing computational theories that elucidate brain functions and mechanisms, and a "Brain-Style Computing Group" that will aim towards establishing new brain-style information technologies that utilize computational theories modeling brain function. The two groups will work in close collaboration, including joint research projects where beneficial. The research topics of the new laboratories and units may include, for example, computational neuroscience, brain-style robotics, neuro-linguistics, neuromorphic engineering and mathematical neuroscience. Applicants are encouraged to submit unique and

creative research proposals that fit within this research context.

New laboratory heads will be provided generous subsidies to organize teams of around 6 researchers and technical staff. Units will also be provided subsidies to build teams of around 3 members, and can be promoted to full laboratory status based on successful review. Employment contracts are renewed annually though full support will be provided for the initial 5 years, after which renewal will depend on the results of a progress review conducted by an international review committee.

Attractive remuneration packages will be available for suitably qualified and experienced candidates with a record of achievement. A benefits package including health, pension, and subsidies for housing and relocation expenses, is also provided. Applicants living outside Japan are highly encouraged to apply. Successful candidates will be able to develop and direct research plans that match the research objectives of the Creating the Brain area, as well as possess a strong desire for interdisciplinary research work. Excellent leadership, interpersonal, communication and team-building skills are essential, in addition to a strong capacity for working in multicultural environments. More

information about the institute can be obtained at [www.brain.riken.jp](http://www.brain.riken.jp). Inquiries can be directed to the e-mail address below.

Applicants should send, fax or e-mail 1) research interests and project proposal for work at BSI (max 2000 words), 2) a full curriculum vitae, 3) publication list, 4) a statement highlighting main accomplishments, and 5) names and addresses of three references to the address below.

Search Committee 22

RIKEN Brain Science Institute

2-1 Hirosawa Wako, Saitama 351-0198, Japan

FAX: +81-48-462-4796 E-mail: [search22@brain.riken.jp](mailto:search22@brain.riken.jp)

Closing date: May 31, 2005



平成 18 年度日米科学技術  
協力事業「脳研究」  
分野各種事業募集

日米科学技術協力事業は、「科学技術における研究開発のための協力に関する日本国政府とアメリカ合衆国政府との間の協定(昭和 63 年 6 月 20 日締結)」に基づいて実施されている研究開発事業です。「脳研究」分野については自然科学研究機構 生理学研究所が協力事業の計画, 実施を担当しています。わが国の研究者の、米国への渡航、滞在、或いは2国間セミナー開催等を支援することにより、脳研究分野における日米共同研究を推進することをめざします。

日米科学技術協力事業「脳研究」分野代表者  
自然科学研究機構 生理学研究所長 水野 昇

(1)募集事業

1)共同研究者派遣

内容 若手研究者(概ね 35 歳以下)の、米国における共同研究

派遣期間 短期 1ヶ月程度 (3名程度)

長期 3ヶ月以上9ヶ月以内 (3名程度)

2)グループ共同研究

内容 日米それぞれにおける研究推進拠点に拠った重点的共同研究

研究期間 平成 18 年度から 2 ~ 3 年間

(1 ~ 2 件程度)

3)情報交換セミナー

内容 各種共同研究・研究協力計画に関連する活動の情報交換

なお、実施組織は日米両国の各 10 名程度の研究者によって組織すること。

開催時期 平成 18 年 6 月 ~ 平成 19 年 2 月 (2 ~ 3 件程度)

共通応募資格:国・公・私立大学及び関連する研究機関において脳研究に従事する研究者

(2)研究分野 脳一般に関する研究

1)認知と学習の神経機構に関する研究

2)運動の発現・制御の神経機構に関する研究

3)情動・記憶の神経機構に関する研究

4)その他

(3)申請受付期限 平成 17 年 9 月 9 日(金)

(4)申請に係る詳細及び書式等については、下記ホームページを参照ください。

ホームページ

<http://www.nips.ac.jp/jusnou/>

(5)問合せ先

(研究関係) 生理学研究所 教授 定藤規弘  
tel:0564-55-7841,e-mail:sadato@nips.ac.jp

(事務関係) 岡崎統合事務センター 総務部  
国際研究協力課 日米担当

〒444-8585

愛知県岡崎市明大寺町字西郷中 38 番地

tel:0564-55-7137,fax:0564-55-7119,

e-mail:japan-us-brcp@orion.ac.jp

## その他



### 日本神経科学学会事務所 移転のお知らせ

本年3月10日に、日本神経科学学会事務所は、下記に移転しましたので、お知らせ致します。なお、電話番号 FAX番号 E-MAIL ADDRESS は、変更ございません。

新事務所

〒113-0033

東京都文京区本郷7丁目2-2 本郷ビル9F

日本神経科学学会

TEL FAX 03-3813-0272

E-MAIL jnss@mb.newweb.ne.jp



### 重要なお知らせ - 電子メールによる お知らせについて -

これまで本学会では電子媒体を用いた会員へのサービスの向上に努めて参りましたが、本年はさらにこれを推し進めるべく、広報委員会では下記のようなサービスの開始の準備を進めております。

- 1 入退会を専用ウェブサイトから行えるようにします。
- 2 入会(退会)承認とUMINへの登録が同時に行えるようにします。
- 3 住所変更などを専用ウェブサイトから行えます(UMINのホームページ(www.umin.ac.jp)でIDとパスワード(PW)を使用すれば今でもできます)。
- 4 会員名簿に専用ウェブサイトからアクセスできるようにします。

将来的には

- 1 選挙の電子化
- 2 過去の大会抄録のウェブ上での会員への公開なども計画しております。

これらを実現するために今後は色々な局面でUMINのIDとPWが必要となります。皆様方の

IDとPWは以前に書面で連絡を差し上げておりますが、念のため再度電子メールで(皆様为本学会に登録しておられるアドレスへ)一度だけお送りする予定です。

本学会からの電子メールはUMINのアカウント宛にのみお送りしますので、UMINのIDとPWを用いて皆様の電子メールソフトの設定を変更していただくか、UMINのサイトにアクセスしていただき、転送設定をしていただく必要があります。

その方法は次号でもお知らせしますが、本学会のウェブサイト(<http://www.jnss.org/page/umininfo.html>)にも掲載しております。

皆様方にはお手間をおかけしますが、これにより学会運営のコストの低減と効率化に加え、情報伝達時間の短縮など会員サービスの向上を図ることができますので、どうかご理解とご協力を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。



### 神経科学ニュース、 神経科学学会ウェブサイトへ の記事の掲載について

学会への提言、研究雑感、学会見聞録、書評等神経科学の発展につながるものであればどのようなものでも結構ですでお送りください。

1. 原稿は電子版のみを受け付けています。原稿は電子メール添付ファイルでお送り下さい。

(a) 受付可能なファイル形式はWord(2001以前)、EG Word(11以前)、Kacis Writerです。それ以外にも或る程度対応可能ですが、事前にご相談ください。また作製に用いたアプリケーションに関わらずHTML、rtfファイルは受付可能です。テキストファイルも可ですが、その場合メール本文に埋め込んでください。

(b) 画像ファイルはPICT、JPEGまたはTIFFファイルで、可能な限り圧縮して本文とは別のファイルでお送りください。

2. 校正は行いません(お送りいただいたファイルをそのまま利用します)ので、誤りの無いことをお確かめの上、原稿をお送り下さい。

3. ニュースへの掲載は1回のみとさせていただきます。

4. 求人情報、学会・シンポジウムの案内、助成金の案内などは特に御希望のない限り、神経科学学会のホームページにも掲載します。記事の長さには制限はありませんが、可能な限り簡潔におまとめ下さい。長すぎる原稿は一部割愛させていただきます場合があります。

5. また、他のサイトへのリンクは原則としておこなっておりませんのでご了承ください。

6. 4以外でホームページに掲載を特に希望される場合は御連絡下さい。

7. 締切は通例偶数月の月末25日ですが、都合により変動することがあります。

8. 掲載料は不要です。

9. 原稿の送付の宛先は以下の通りです。

10. ホームページのみへの掲載も上記1, 2にしたがって承ります。

jnssnews@mc.newweb.ne.jp 宛お送りください。

なお、Ccをニュース編集小委員会の新委員長の白尾智明先生(tshirao@med.gunma-u.ac.jp)宛てにお送りください。

## 編集後記

梅の花も咲き始め春が待ち遠しい今日この頃ですが、皆様いかがお過ごしでしょうか。「暖冬になるだろう」という長期予報に裏切られ、北陸では今年も雪の多い冬になってしまいました。例年のことながら、年度末の報告書作成などでお忙しい先生方も多いことと存じます。さて、本ニュースの先頭記事にありますように、津本学会長のもと、本年1月から神経科学学会の新体制がスタートいたしました。前会長の小幡先生はじめ、関係諸先生方のこれまでの実績を継承するとともに新たな試みを加えて神経科学学会の活動が強化され、ますます発展することが期待されます。また、Neuroscience 2005 (第28回日本神経科学大会)は、大会長の宮下先生を中心に着々と準備が進んでおり、1250題余りの登録をいただきました。事前参加登録の締切りは5月31日ですが、皆様是非ともご参加くださり、大会を盛り上げてくださいますようお願い申し上げます。なお、学会の新体制発足にともない、ニュース編集小委員会のメンバーも変わります。これまで3年間編集を担当させていただきましたが、何とかやってくることができましたのも委員の先生方のご努力と学会の皆様のご協力のお陰です。この場をお借りして感謝申し上げます。次号からは新委員長の白尾智明先生にバトンタッチしますが、神経科学ニュースをより一層充実させるために皆様からの投稿やご提案を引き続きお待ちしておりますので、どうかよろしくお願い申し上げます。(狩野記)

発行：広報委員会

村上富士夫(委員長)

狩野方伸(ニュース編集小委員会委員長)

蔵田 潔(電子化推進小委員会委員長)

白尾智明(ホームページ担当小委員会委員長)